

29-1111 W113-3

イリノテカン(CPT-11)の遅発性下痢に対するグルタミン及びアルカリイオン水の効果

○三枝 邦廣¹, 西方 真弓¹, 阿南 節子², 松山 賢治¹ (¹武庫川女大薬,²市立堺病院薬)

【目的】イリノテカン(CPT-11)はI型DNAトポイソメラーゼ阻害作用を示し、多種類の癌に適応を持つ抗癌剤である。しかし用量規制因子の一つに下痢があり、腸管の細胞障害を引き起こす遅発性下痢による脱水や電解質異常が临床上問題となっている。今回、腸粘膜の主要エネルギー源であるグルタミン(Gln)と、腸管のアルカリ化を目的としてアルカリイオン水(Alkali)を用いた遅発性下痢の軽減効果について検討した。【方法】7週齢の雄性Gunnラットを使用した。GunnラットをGln及びAlkali処置群10匹と非処置群10匹の2群に分け、1クールを3週間とし計2クール行った。実験系として、1クールと2クール続けて同じ群にGln及びAlkali処置を行う繰り返し投与方法と、1クールと2クールでGln及びAlkali処置を逆にするクロスオーバー法を行った。それぞれの処置はCPT-11投与1週間前から開始し、CPT-11はエーテル麻酔下で、ラット大腿静脈から投与した。体重、食餌量、便の個数、pHを計測し、下痢については便の形状と個数により5段階にスコア化を行い評価した。【結果・考察】Gln処置では、繰り返し投与の2クール目に体重及び食餌量の回復が早く、有意差が認められた。Alkali処置でも同様に、繰り返し投与で1クール、2クール続けて体重及び食餌量の減少が緩やかに回復が早かった。また、両処置で下痢の期間短縮も観察され、スコアの比較ではGln処置で2クール目、Alkali処置で1クール目にControlと比べ有意差が認められ、下痢軽減効果が示唆された。便のpHは投与4日後に最も上昇しており、これは腸管への細胞障害のため腸粘膜が剥離したためと考えられる。今回の検討においてGln及びAlkali処置により、CPT-11による遅発性下痢の軽減及び血便の減少が観察され、これら処置方法の有用性が示唆された。